

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク

3つのワークを大切にし、実行できる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組み推進。

(1) ノートパソコン等の端末を授業で活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。

(2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。

(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援するための進路講演会及び放課後や土曜日を活用した無償・有償の講習を行う。授業も含め、教育産業の学習動画を活用する取組みを充実させる。

(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニング、端末を活用した次世代型授業、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教職員研修や生徒授業アンケート結果の活用などにより組織的な授業力向上をめざす。

(5) 「桜塚の総合的な探究の時間」をまとめていく。3年間を通じた系統的な取組みにより、自身の将来に向けた展望を描くとともに、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身につける。自らが主体性を持ち、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。

(6) 新学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえ、観点別学習評価を進める。

(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数が増える取組みを推進する。

(8) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [GSC] とグローバルスタディサイエンスコース [GSS]）制を生かし、生徒の学力の効果的な向上による第一希望の進路実現を図る。粘り強く進路実現に向かうことにより、現浪合わせての国公立大学合格者を増やし、令和5年には20名合格を目標とする。（H30 19名、R1 8名、R2 17名）

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価（H30 59.2% R1 62.4% R2 60.5%）を向上させ、令和5年度には70%をめざす。

(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。

2. 人間力をつけること、規律、安全安心について

(1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。規則を守り、礼儀に気をつける。

(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。

(3) 人権問題に関する正しい知識・理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。

(4) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。

(5) 体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。

※ 年間延べ遅刻者数（H30 3,639人 R1 2,539人 R2 2,093人）を減らし、令和5年度には、延べ1,800人以下をめざす。

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

(1) OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の期間との連携と支援を生かした取組みを展開する。

(2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。平成30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。

(3) 広報活動を積極的に行う。Web Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。

※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価（H30 62.0% R1 68.2% R2 -）を増やし、令和5年度には、70%をめざす。

4. グローバルリーダーの育成

(1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。

(2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※ 国際交流活動等に取り組む学校教育自己診断に肯定的評価（H30 82.4% R1 84.3% R2 -）を増やし、令和5年度には、85%をめざす。

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化

(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。

(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。

(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。

(4) 分掌に位置付けられない組織「SPT (Sakura Project Team)」の取組みを推進する。

(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。

(6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。

ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。時間外勤務時間月平均45時間未満をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
生徒対象教育自己診断 ・26項目中22項目（85%）において肯定率が増加し、全設問の肯定率の平均も80.4%（R1 74.3 R2 75.5）と8割を超えた。下がった4項目のうち3項目	【第一回】<6月9日開催> ・進路実現については、国公立の人数よりも「第一希望の実現」が大切で、グローバル社会を生きる生徒たちは、多様な進学先を希望することがあっても良いと思う。また、進学以前に自分の未来

府立桜塚高等学校

については、1ポイント以内であるため概ね昨年度並みと考えると、有意な幅で下がったのは「学校で、地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」（肯定率 70.6%）の1項目のみである。これは、今年度、コロナの感染拡大により、密状態を回避するため避難訓練を例年並みに実施できなかったことが影響していると考えられる。7割という値は必ずしも低いとは言えないが、結果を受け止め、来年度以降に活かしていく必要がある。

・多くの設問において肯定的評価が向上したことは教職員集団による日頃の教育活動の成果であり、学校として嬉しい結果である。中でも「授業がわかりやすい」の肯定率が 60.5%から 74.9%と飛躍的に向上したことは、この1年間、府のパッケージ研修をはじめとする組織的な授業改善に取り組んできた成果であり、先生方一人ひとりの努力の賜物である。

また、先生方の授業改善に向けた取り組みは、具体的な実感として生徒に伝わっており、「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定率が 61.5%から 73.8%、「クロムブックを授業・ホームルームで活用する機会がある。」の肯定率が 74.3%から 93.0%と大きく増加した。また、自由記述にも「端末を活用することで授業がわかり易い」などといった記述が多く見られた。来年度から新学習指導要領の本格実施、あるいは国の「GIGA スクール構想」による1人1台端末を活用した教育が始まろうとしているなか、この結果は本校にとって追い風と言える。引き続き、生徒にとって必要な力の模索、そしてその力をつけるための組織的研鑽を進めてきたい。

・「先生は協力して生徒指導にあたっている」（82.6%）＜（R1 74.2% R2 76.2%）＞、「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」（78.1%）＜（R1 70.0% R2 72.3%）＞と、生徒指導に関する肯定率は2年連続で向上した。日頃から、先生方が一枚岩となりながら丁寧に指導をしている姿、そして生徒の成長を願う思いが生徒にも伝わっていることが伺える。

・「将来の進路や生き方について考える機会がある」（92.5%）＜（R1 78.7% R2 85.3%）＞は2年連続で飛躍的に向上し、9割を超えた。HRや探究の時間を活用したキャリア教育の成果である。

・「人権について学ぶ機会がある」（85.6%）＜（R1 77.6% R2 85.2%）＞も高い肯定率を維持することができた。生徒全てが、安全で安心した学校生活を送ることができる学校であるためには、「自己肯定・他者理解」両面からの人権教育は必要不可欠である。「部落差別問題」などの不易の課題から、「性的マイノリティー」などといった日々情報がリニューアルされるような課題まで、多岐にわたる人権教育をおこなっていくことは高校教育の根幹のひとつである。

・本校における人権教育の充実、ならびに教職員集団の人権感覚（カウンセリングマインド）の向上が、「学校では挨拶が自然に交わされている」（79.0%）＜（R1 71.2% R2 78.5%）＞、「先生は、いじめや相談事について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」（85.3%）＜（R1 71.1% R2 79.1%）＞といった肯定率向上に繋がっていると言える。

＜今後の課題として＞

・「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」（65.3%）＜R1 69.6% R2 66.0%＞が、昨年度からさらに0.7ポイント減少した。コロナ感染症の影響もあると考えられるが、今後学習支援クラウドサービスを活用するなど、生徒がわからないところを質問しやすい場面の創出が課題である。

・「担任の先生以外に相談することができる先生がいる」（59.0%）＜R1 62.2% R2 54.7%＞は、昨年度から4.3ポイント回復したものの2年前の値には届いていない。生徒の多様化が進む中において、生徒相談体制の充実は大きな課題である。引き続き、担任団、教育相談委員会を軸に、さらなる体制の充実が必要である。

・前述した「学校で、地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」（70.6%）＜R1 75.5% R2 79.8%＞が下がったことについては、コロナ感染症の影響があるとは言え、結果を真摯に受け止め、方法の検討も含め来年度以降改善していかななくてはならない。

保護者対象教育自己診断

・20の設問全てにおいて肯定率が増加した。また、全設問の肯定率の平均も 80.2%（R1 74.0% R2 74.8%）と8割を超えた。生徒の満足度が保護者にも伝わっていることがわかる。

・「子どもが授業がわかりやすいと言っている」（68.8%）＜R1 50.6% R2 61.2%＞はここ2年間順調に増加している。2年間で20%近く向上したことは、教職員の元気に繋がる結果であり、日頃の教員の研鑽が生徒を通じて保護者に伝わったものと思われる。

・「桜塚高校では、生徒に対するプライバシーや人権が守られている」（95.2%）＜R1 91.5% R2 91.3%＞は、極めて高い肯定率となった。教育活動における基盤であり、引き続き、組織として徹底する必要がある。

を描き、なりたい自分を考えることが大切で進学はそのための手段であると思う。

・「人権問題」についての記載を学校経営計画に入れたのは良いことである。従来からの課題に加えて、SNS などの人権侵害は、誰にでも起こりうるので、指導が必要である。

・教科ごとの取り組みは大切だが、教科の枠を超えた教育力の向上も大切である。文・理、講義・実験実技、など様々な角度からの視点を共有することが必要であると思う。

・制服の改定に伴い、LGBTQ について学習する機会を持った方が良い、(LGBTQ に配慮した) 校内の設備の整備は必要である。

【第二回】＜11月26日開催＞

・コロナ下においてを進めてきた取り組みを、平常時の教育においても、その質の向上に役立てる必要がある。特に ICT を活用した取り組みは、ハイブリッドで多様な生徒のニーズに対応できることが期待される。教職員にとっても働き方改革につながる ICT 活用が必要である。

・進学実績も大切だが、それは通過点であって、もっと先の豊かな人生を切り拓くためのもの、内発的動機付けを持つ力をはぐくむことが大切である。

・コロナの影響で、この2年間の交流事業が実施できていないため、「すこやかフェスタ」や「敬老会」等の桜塚高校生も参加していたイベントが、忘れられてしまうのではないかと心配している。

【第三回】＜2月25日開催＞

・コロナ禍で特に生徒と地域の関係が切れている。教員の転勤や生徒の卒業などにより、これまで一緒に行ってきたものが引き継がれなくなるのではないかと心配している。行事などは一度なくなると再開が難しいため、記録を残すなどして途絶えないように工夫してほしい。

・異文化を知るには、まず自らの文化を知ることが必要。そのための財産（戦時中や戦後の取り組みの記録など）が桜塚高校にはあるので、それを活用してほしい。

・「探究」の時間の中で「気づき」を大切に、わからないことを考えたり、その内容を整理したりする活動してほしい。「なぜ学ぶのか」を考えることから、「将来どんな生き方をしたいのか」を考えることにつなげ、生徒自身に「学ぶ力」をつける取り組みをしてほしい。

・地域との連携において、コロナウイルス感染症が流行する前までは継続して行っていた行事などが行えていない。生徒間での引継ぎが行えていないことが今後に影響しないか不安である。なんとか継続して欲しい。

・グローバルリーダーの育成のなかで、「英語力の育成」も大切であるが、環境問題や国際問題について知ることをはじめ、グローバル社会で「生き抜く」方法を伝えてほしい。

・自転車のマナーが気になるので、指導をお願いしたい。

・「桜塚高校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」(93.7%) <R1 88.0% R2 89.6%>、「桜塚高校によるメール発信は役に立っている」(97.8%) <R1 76.6% R2 68.9%>という高い満足度は、本校からの情報発信が有効であり、保護者連携の大切なツールとなっていることの表れである。今後も、保護者連絡用メール配信システムに加え、学習支援クラウドサービスを活用し、さらに保護者との繋がりを強化するとともにペーパーレス化も推進していきたい。

<今後の課題として>

・「子どもは、家庭でよく話をする」(76.7%) <R1 80.7% R2 72.7%>、「子どもの様子は、よく把握している」(77.4%) <R1 83.1% R2 77.1%>の2項目の肯定率は、昨年より微増したものの一昨年の値には届いていない。必要に応じて学校での生徒の様子を伝え、保護者と共有しておくことが大切であるとともに、学校から重要な連絡をおこなう際には、確実に保護者に届ける手段をとる必要があると思われる。

・最も低かったのは「桜塚高校の施設・設備は学習環境の面で満足できる」(56.5%) <R1 45.4% R2 55.6%>の肯定率であった。特に自由記述ではトイレの改装について要望が多く見られた。

教職員対象教育自己診断

母数が少ないため有意差が何ポイントかという判断は難しいが、昨年度比5%以上増加・減少した項目および2年間で大きく変化した項目に着目し考察する。

・「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある」(89.1%) <R2 72.9%>「コンピュータ等 ICT 機器が授業などで活用されている」(97.7%) <R2 91.7%>の肯定率が飛躍的に増加した。1人1台の端末を活用した教育活動において、府のパイロット校というスタンスで先進的な授業改革をおこなっていることは、現在、本校教育の大きな特色となっている。私立高校に志願者が流れ公立高校の魅力化が喫緊の課題となっている中、学校の特色や魅力をアピールすることは、大切な要因であると言える。

・「年間の学習指導計画について各教科で話し合っている」(78.3%) <R2 70.9%>は大幅にアップした。教育改革が進む中、「生徒にとって有意義な教科教育を模索するための教科内コミュニケーション」は、とても重要である。引き続き、教科が一丸となり、本校生徒の学力向上に力を合わせる事が大切である。

・「生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応する体制が整っている」(95.6%) <R1 78.9% R2 89.3%> は2年間で大きく増加した。また、「生徒指導において家庭と緊密な連携ができています」(97.9%) <R1 86.5% R2 93.6%> は、昨年度よりさらにアップし、極めて高い肯定率となった。年々課題が複雑多様化する状況の中において、組織的対応の推進、保護者との連携、専門家や外部機関との連携等はとても大切な観点であり、この項目の肯定率が向上したことは、本校生徒指導力がアップしていることを表している。

・「生徒自治会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している」(82.6%) <R2 75.0%>は、昨年度、コロナの影響もあり肯定率がダウンしたが、今年度大幅に向上した。感染症の影響で様々な活動が制限されている生徒たちへの寄り添いや、これからの社会に必要な資質である「主体性」の育成に向け、教員側が粘り強い指導を行っていることの表れであり、このような姿勢が、生徒による学校生活への満足度に繋がっているものと思われる。

・「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」(97.9%) <R2 95.8%>の肯定率が昨年度からさらにアップし、極めて高い肯定率となった。教職員のカウンセリングマインドの向上はもとより、組織的対応が進んでいることを表している。「いじめ対応委員会」も、いじめの早期対応に機能を果たしている。

・「本校の校内研修は、質・量ともに充実している」(82.6%) <R1 59.6% R2 70.9%>は、昨年度の21%に続きさらに11%増加した。「研修の目的が明確であり、研修による成長が実感できたこと」が大きいと考えられるが、自主的な研修会を多く開催したことにより、「義務的ではなく、積極的に参加できる楽しい研修」になったのではないかと考えられる。研修は、「効果(満足感) > 負担」が実感できるものでなければならない。今後も内容を精選しながら「為になり、今後に生かすことのできる研修」や「自発的な研修」を進めていくことが必要である。「教員間で授業見学し、授業方法について検討する機会を積極的に持っている」(90.9%) <R1 76.9% R2 84.8%>が向上しているのも、教職員集団の前向きさの表れである。新しいことに取り組んでいかなくてはならない今であるからこそ、生徒の成長のために支えあい励ましあう教職員集団が大切である。

・「清掃が行き届いている」(87.0%) <R1 67.3% R2 79.2%> の肯定率が

きく増加した。保健部を中心に普段の監督の先生方が、しっかりと指導を行っていることのと表れであると言える。教室の整頓は落ち着いた授業に繋がるため、引き続き、校内の整備を心がけていくことが大切である。

・「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」(95.6%) <R2 87.5%>が大きくアップした。情報化が進む中、インターネットを活用した情報発信は大きな効果を生み出すため、今後も内外に効果的な発信を行っていく必要がある。

・「桜塚高校では生徒同士や教職員相互、生徒と教職員間で挨拶が自然に交わされている。また、外来者に対してもきちんと挨拶ができています。」(80.4%) <R2 73.0%>が向上したことは、学校組織に流れる空気が良くなったことの証といえる。教員相互の信頼関係、教員と生徒の信頼関係、生徒同士の信頼関係が挨拶の根幹である。教員同士、そして教員から生徒に対し心のこもった挨拶が自然に交わされ、温かい空気が溢れる学校こそが、「生徒の心が育つ」学校であると言える。

<今後の課題として>

・学校が抱える課題の複雑多様化や新陳代謝が進む中、「オール学校」での課題解決や改革をおこなっていく必要がある。今後も、教科や分掌を横断した組織力アップに向け、首席が軸となりながら、風通しの良い職場環境を整えていくことが大切である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援する。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。</p> <p>(6) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた、観点別学習評価を進める。</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を生かし、学力アップを図る。</p> <p>(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。</p> <p>(1) タブレットを活用した授業形態に取り組む。「調べ学習」、「小テスト」、「プレゼンテーション」といった活動を通して、生徒の主体的かつ協働的な学びを創出する。さらに、教育産業や教員による学習動画を活用することにより、学びなおしや基礎固めのサポートをおこなう。</p> <p>(2) GSCの授業で、大学から講師を招聘し、Speaking力の向上をめざす。全学年でリスニングテストを実施する。</p> <p>英検を推奨するとともに、検定合格率を上げる。</p> <p>(3) 進路講演会の充実及び5:30以降の講習「桜塾」を継続発展させる。</p> <p>(4) アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10年経験者研修受講者及びアドバンスセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。</p> <p>(5) 地域や企業等との連携や教育産業による分析システムを活用する等、幅広い取組みを通して総合的な探究の時間の充実を図る。</p> <p>(6) 観点別評価が試行実施されることに伴い、生徒に対して評価の観点を明確に示すとともに、適正な評価をおこなう。</p> <p>(7) パソコン等の活用を通して図書館利用を促進し、情報活用能力を育成する。</p> <p>(8) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図れるよう、効果的なカリキュラムやコース制のブラッシュアップを検討する。</p> <p>(9) 教育産業による学習動画の活用等、工夫を行うことにより学びに向かう意欲を高め、講習受講や自習室の活用を促す。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「ノートパソコンを授業・ホームルームで活用する機会がある」肯定率80%以上。[74.3%]</p> <p>「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」肯定率90%維持[91.6%]</p> <p>(2) 大学出張授業を6回以上実施。[感染症の関係で2回のみ]</p> <p>英検受験者の50%が準2級以上、GSCの生徒は受験者20%以上が英検2級以上合格。[感染症の影響で予定していた一斉受験を中止]</p> <p>(3) 桜塾の生徒満足度70%以上 [70%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「アクティブラーニング型の授業を取り入れている」肯定率70%以上[63.8%]</p> <p>教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」肯定率85%維持。[84%]</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率85%。[85.3%]</p> <p>(6) 生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」肯定率80%以上 [77.3%]</p> <p>(7) 図書室の利用者数3,000名以上[2,600名]</p> <p>(8) 共通テストの自己採点において、専門コース生徒(英語・数学)の全国平均を超える得点。[英語+12、数学-7]</p> <p>(9) 5:30以降講習受講者の昨年度と同等数維持。[175名]</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「ノートパソコンを授業・ホームルームで活用する機会がある」93%、「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」97.7%、ともに指標を大きく上回った。次年度は、大阪府のアクションプランに基づき、「双方向的な活用」「協働的な活用」「個別最適な学びに向けた活用」など、より効果的な活用に向け、さらにブラッシュアップしていきたい。(◎)</p> <p>(2) 大学出張授業はコロナの影響により2回しか実施できなかった。(△)</p> <p>現在、準1級1名、2級87名、準2級135名の検定合格者がいることは把握できているが、一斉受験を実施できなかったために、受験者の数が把握できず、合格率が不明である。来年度からは、成果指標を合格率ではなく、合格者で設定するのが望ましいと考える。(一)</p> <p>(3) 桜塾の満足度は85.6%と好評であった。(◎)</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「アクティブラーニング型の授業を取り入れている」69.6%とわずかに指標に届かなかった。コロナによる制限が影響したことも原因の一つに挙げられる。(△)</p> <p>ICT 端末活用を主題にした公開授業週間を設定するなど、相互授業見学を組織的に推進したことにより、授業力は着実に向上した。教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」は90.9%と大きく向上した。(◎)</p> <p>(5) 探究におけるキャリア教育の取組みにより生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」は、92.5%と大きく向上した。(◎)</p> <p>(6) 観点別評価導入に向け、教科を軸とした試行を行うなど準備は順調に進めることができた。生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」は81.6%であった。いよいよ本格導入となる来年度、教科を軸に適宜チェックや総括を重ねながら、組織として適正に実施していく必要がある。(○)</p> <p>(7) コロナの感染防止に向けた昼の黙食指導や放課後の開館時間の制限もあり、来館者は昨年度より減少し、図書室のべ利用者数は1,605人であった。(一)</p> <p>(8) グローバルスタディコミュニケーションコース(GSC)の生徒による英語(リーディング+リスニング)の自己採点平均は、センター中間集計の平均点プラス9点で、目標の12点には届かなかった。(△)、グローバルスタディサイエンスコース(GSS)生徒による数学(数IA+IIB)の自己採点平均は、センター中間集計の平均点プラス10点で、目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(9) 5:30以降講習受講者は140名、昨年度と同等数を維持することができなかった。次年度は、数学と国語を開講せずに教科を英語に絞り、目標を英検合格に特化し、生徒の意欲、満足度の向上を図る。(△)</p>

府立桜塚高等学校

2 人間力をつける、 規律、安全安心について	<p>2. 人間力をつける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について。</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。自己肯定感を大切にする。</p> <p>(3) 人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。</p> <p>(4) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を促進する。</p> <p>(5) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 丁寧で組織的な生活指導により、基本的生活習慣の確立や交通ルールを初めとする社会規範の醸成、学習規律の向上をはかる。また、人間関係構築の基本である挨拶の習慣を身につけるための取組みを組織的にこなす。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 人権 HR や講演会を初めとする様々な場面を通じ、性別、障がい、国籍等による差別や同和問題などあらゆる人権問題に関する知識・理解を高める教育を推進する。</p> <p>(4) 国際交流活動による異世代・異文化との交流を通して、グローバルな視野を育成する。イベントや防災活動などでの相互連携を通して、地域に愛される学校をめざす。</p> <p>(5) 生徒が主体的に運営する部活動や、自治会活動等を創出する。さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断 「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率 70%以上。[72.3%] 「学校では挨拶が自然に交わされている。」肯定率 80%以上。[78.5%] 年間遅刻数 1,800 以下。[2,093]</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断 「担任の先生以外に相談することができる先生がいる。」肯定率65%以上。[54.7%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断 「人権について学ぶ機会がある」肯定率85%維持。[85.2%]</p> <p>(4) 年間3回以上の国際交流事業の実施。[コロナの影響で未実施]</p> <p>(5) 教職員向け学校教育自己診断 「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率 90%以上。[86.9%]</p>	<p>(1) 生活指導部を中心とする粘り強い指導の結果、生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」は 78.1%と大きく向上した。(◎) しかし、「学校では挨拶が自然に交わされている。」は 79%と指標に届かなかった。引き続き粘り強く指導を行っていく。(△) 年間の遅刻数は 1,832 回と、概ね目標を達成した。(○)</p> <p>(2) 生徒相談・いじめについてのアンケートを実施するとともに、相談窓口を周知し教育相談体制を充実させたが、生徒学校教育自己診断「担任の先生以外に相談することのできる先生がいる」肯定率平均は 3%アップし 59%になったが、指標には届かなかった。(△)</p> <p>(3) 人権ホームルームや学年別人権講演会などにより人権教育を推進した結果、生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」は、85.6%と高い水準を維持することができた。来年度は、SNS による人権侵害に対する指導を行いたい。(○)</p> <p>(4) コロナの影響でこれまでの国際交流活動や地域貢献活動の多くが今年度も実施できなかったが、海外とのオンライン交流や豊中市の SDGs パートナーになるなど、今後に向けた新たな取組みは実施できた。(一)</p> <p>(5) 今年度はコロナの影響で体育祭が中止、学年毎の競技と3年生のパフォーマンスのみの実施であった。また、文化祭も大幅に制限をせざるを得なかった。さらに、部活動についても十分な活動ができなかった(一)</p>
3 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の発展。「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page を活用した広報活動を積極的に行う。生徒による更新も推進する。</p>	<p>(1) イベントにクラブが出演するなど、地域との連携を深化する。大学との連携授業を通して生徒の自己実現を支援する。OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を進展させ、持続的な支援や交流を行う。平成 30 年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page の画面を見やすくするとともに、生徒による「部活動・自治会ブログ」の更新を推進し、学校の元気な様子を内外に発信する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断肯定率「豊中市等のイベントにさまざまなクラブが参加するなど地域連携を行っている。」肯定率 70%以上[R2は緊急事態により全て中止になったため教育自己診断を実施せず。(参考) R1 68.2%]</p> <p>(2) 訪問やオンラインによる年1回以上の相互交流を実施。[2回]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率90%以上[87.5%] 生徒による「部活動ブログ」を月平均1回以上更新。[新規事業]</p>	<p>(1) 公的機関等との連携で留学生受け入れを実施。コロナ感染症のため、しだれ桜の一般公開・豊中市との地域連携イベント等は本年度実施できなかった。コロナ終息後は、従来行っていた「すこやかフェスタ」や「敬老会での交流」などを復活し、積極的に地域と連携していきたい。(一)</p> <p>(2) 豊中市社協ボランティアバス事業がコロナ感染症のため、今年度も中止となったため、大槌高校とは自治会生徒中心に、オンライン交流・ビデオレター・メール交換という形式での交流を2回実施した。来年度は修学旅行で東北に行き、交流を計画している。(○)</p> <p>(3) Web Page のトップページを検索しやすいように変更した。「部活動・自治会ブログ」は、生徒を参画させることにより、月1回以上は更新できた。ホームページの活用は進み、教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」は 95.6%と指標を大きく上回った。(◎)</p>
4 グローバルリーダーの育成	<p>4. グローバルリーダー育成</p> <p>(1) 国際社会で通用する人材の育成を目的とした国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 生徒への情報提供、ニーズ把握等を積極的におこない、忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組みを初めとする海外研修・留学(長期・短期)・海外進学を推進する。</p> <p>(2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業を依頼する。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある。」肯定率 85%以上[R2は緊急事態により、ほとんどの事業が中止になったため診断できず。(参考) R1 68.2%]</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている」と「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」の項目、2回の平均値 3.4 以上 [3.3]</p>	<p>(1) 姉妹校との複数回のオンライン交流、アジア架け橋プロジェクトの留学生受け入れ、ヨONSEI(韓国)への進学指導などを行ったが、他の多くの事業が、コロナの影響により中止となった。(一)</p> <p>(2) 専門科目の「課題研究」「国際理解」の授業評価における生徒意識「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている」、「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」の項目の平均値はともに 3.3 に留まり、わずかに指標に届かなかった。(△)</p>

府立桜塚高等学校

<p>5 チーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>5. チーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化 (1) 全・定併置校の特色を活かした取り組み。</p> <p>(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。</p> <p>(3) 運営委員会メンバーを中心に、分掌・教科のセクショナルリズムにとらわれることなく、本校教育活動について教職員が日常的に話し合える雰囲気醸成する。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取り組みを推進させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革による、教職員の健康管理を推進する。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) 学習指導要領の改訂に伴う、教授法や評価法等様々な改革に対応するため、教科ごとの組織力を高めるとともに、教科を横断した「学校ベクトル」を基とした教科教育を推進する。</p> <p>(3) 首席を軸としたミドルアップ的な組織体制を構築し、運営委員会のメンバーが学校全体の立場から意見交換を行うとともに、分掌・学年の連携のもと、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する。</p> <p>(4) 首席を軸に SPT の取り組みをさらに機能させ、朝学、国際交流などといった本校の特色、魅力のアップを図る。</p> <p>(5) 教育課題の変化や多様化に対応することのできる教職員の組織的・継続的な育成に向け、校内研修を充実させる。</p> <p>(6) 部活動指導における外部指導者の積極的活用、行事の見直し、学年・分掌業務の平準化を推進し、時間外勤務削減をはかる。</p>	<p>(1) 教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するに当たり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」肯定率 65%以上。[58%]</p> <p>(2) 教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率 75%以上。[70.2%]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」肯定率 75%以上。[74.5%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」肯定率 75%以上。[72.9%]</p> <p>(5) 教員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」肯定率 70%維持。[70.9%]</p> <p>(6) 月平均残業時間 80 時間以上の教員をなくす。[1名] ストレスチェックの全校平均値 105 以下。[107]</p>	<p>(1) 全定の様々な連絡調整のため、必要に応じて担当者間での連絡会を開催した。また、定期的に全定管理職会議を実施し、協力関係を構築した。教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するに当たり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」は4ポイントアップし62.2%になったが、指標には届かなかった。(△)</p> <p>(2) 新教育課程実施に向け、授業力向上等検討委員会およびカリキュラム委員会を中心に、「新観点別評価」「1人1台端末活用授業研究」をテーマに組織的な教科教育推進を図った。教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率は82%と大幅にアップした。(◎)</p> <p>(3) 運営委員会で意見交換を行い、学校運営の基本方向性を確認した。教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」は73.9%と指標に届かなかった。首席を活用した組織的な連携方策が今後の課題である。(△)</p> <p>(4) SPT は機能し、朝学、国際交流などの本校の特色、魅力のアップを図ることができた。教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」は89.1%と大幅にアップした。(◎)</p> <p>(5) パッケージ研修をはじめとする全体研修に加え、少人数の自主研修会など、効果的な研修会を開催することができ、教員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」は82.6%と大幅にアップした。(◎)</p> <p>(6) 月平均残業時間 80 時間以上の教員が1名。さらなる業務改善および平準化が必要である。(△) ストレスチェックの全校平均値は「95」。昨年度と比較し、大きく改善された。しかし、高ストレス判定者が7名いるため、業務の平準化が課題と言える。(◎)</p>
-------------------------------------	---	---	---	--